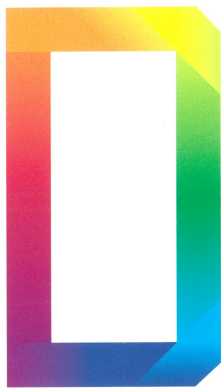


RECRUIT DOCTOR'S CAREER



今月の
転職情報 | 278件

リクルートドクターズキャリア



スペシャル企画

開業成功の必須ポイント

私のキャリアチェンジ

「患者がいるところが診療の場。
自分が目指す地域医療は
在宅診療の中にあった」
内科・36歳

連載

Medical English

広告特集

- 開業特集
- 大規模病院特集

信頼してトータルに任せられると実感できる クリニック設計・施工のプロフェッショナル 株式会社コンパス

compass

医師の想いを受けた親身な対応とトータルな提案に納得

京阪本線・古川橋駅から徒歩3分の好立地にある「整形外科 せいクリニック」。同クリニックの院長・清野大輔氏は当初、隣の大和田駅周辺での開業を考えていた。「隣駅周辺は生まれ育った街。そこで開業を考えていました。自分で情報を収集し、非常に気に入った物件を見つけたのですが、コンサルタントや不動産会社からは、そこでの整形外科の開業は厳しいと言われてしまいました。しかしどうしても諦め切れなかったんです」という清野氏が、いわば「セカンドオピニオン」を求める形で訪れたのが、株式会社コンパスだった。



同社のホームページを見て好感を持ったのがきっかけだったという清野氏。その時出会ったのが、営業部門を統括している長渡武史専務だった。清野氏にこの地での開業は本

に厳しいのかどうか相談を受けた長渡氏は、まず清野氏がどのような診療をしたいのかヒアリングするところから開始し、その上で問題点を抽出した。

「最大の障壁は当該物件が上下の2フロアに分かれていたこと。清野先生は上階をリハビリテーション室にと考えていたのですが、それには新たにエレベーターを設置する必要があったのです。これは確かに厳しい条件でした」と語る長渡氏だが、清野氏の想いに応えるべく、物件オーナーや行政等の関係各所と折衝。同時に構造計算や建物の一部を剥がしての实地調査も行った。その結果、当該物件での開業は可能であるという結論が出た。

「費用をかけて事前調査を行い、可能であるという結論は出しましたが、工事には非常に大きな費用がかかること、同面積でも1フロアならばおよそ半分のコストで清野先生がやりたい医療ができることをお伝えしました。並行してコンサルタントの方から提案を受けていた現開業地の物件と併せ、清野先生を中心に弊社の営業担当や設計担当も加わって、様々な観点から比較検討。その結果、現在地の物件で進めることに決定いただきました」と長渡氏は語る。

スタッフの方々がいますので、それぞれを中心として、ゾーニングを行っていただきました。清野院長は非常にスタッフを信頼されており、任せる部分も多かったため、リハビリ室に関しては理学療法士の方と打ち合わせする時間が長かったですね」

イメージしやすい進行管理 開業後のアフターフォローも丁寧に

実は開業準備を開始した2014年当時、清野氏はJリーグのプロサッカーチームであるガンバ大阪の専従ドクターを勤めていた。同年、ガンバ大阪はリーグ優勝をはじめ国内3冠を達成するという成績を残し、清野氏も多忙であった。その中で打ち合わせでは、イメージしやすい提案、進行を図ったと五百蔵氏は語る。

「最初のゾーニング案やインテリアのデザイン案などは複数用意し、選択しながらプランを詰めていけるように進めました。ある程度平面のプランが決まった後は、間仕切りや導入する医療機器の位置を、物件の床にテープを貼ることで示し、実際のスケール感を知っていただき、診察室からバックヤードが見通せるようにしたり、薬局に松葉杖をおけるスペースを設けたりと、さらに細部を決定していきました」

プラン確定後、施工管理を担当したのはコンパス建築部部長の前蘭浩幸氏。施工にあたっては近隣への配慮を十分に行った。「クリニックは、完成した後、そこで開業し、長く地域の方とおつきあひするわけですから、近隣との関係は最大限、配慮する必要があります。特にハッキリ工事（コンクリート）を削るなど作業等、音や振動が発生する工事には細心の注意を払っていま

す。また現場の整理整頓にもしっかりと目を行き届かせています」

アフターメンテナンスも建築部が担当している。清野氏から様々な問い合わせや相談があった際には迅速な対応がなされており、意思疎通の「キャッチボール」はスムーズに行われていると清野氏は語る。「フォローに関して、完璧ですね。開業準備から開業後まで非常にスムーズに進行したのは、やはり専門企業としてクリニックのことをよく理解しているからだと思えました」



上/木の質感が温かみを感じさせる待合室。ここから診察→リハビリ→会計の動線が考えられている。下/使いやすさを追求した診察室。電動ベッドの位置なども事前に綿密に計算し決定

この秋、東京に進出。セカンドオピニオンも実施

医師免許がそれひとつで内科・外科・眼科・耳鼻科などを診療することが可能なように、建築士も住宅や店舗、さらには医療や介護といった区分なく、全ての用途を設計することができる。そのため同じ設計会社でもクリニックの設計・施工が専門であるかどうかで、有している経験やノウハウには大きな違いが生じる。株式会社コンパスは、まさにクリニック分野の「専門科」として、安心して任せられる存在だ。これまで関西を中心に事業を展開してきたが、この秋、東京に営業所を開設。本格的に首都圏での事業を開始する。

■クリニック設計施工のノウハウを動画で公開

「奇をてらわず、使いやすく無駄がない」をモットーに、圧倒的な経験値によるクリニック設計施工のノウハウを動画で公開。会員登録をすることで、今までありそうではなかった設計の考え方の動画ライブラリーを無料で見るができる。

■設計のセカンドオピニオンを実施

他社で進めている設計に不安を感じているドクターに対して、有料でセカンドオピニオンを提供。「機材の搬入経路が確保されていなかった」「診察室が大きすぎて逆に使いづらい」「スタッフの動線が悪く、増員せざるを得なかった」等々、開業してからは遅い数々のトラブルを、豊富な経験で未然に防ぐ。

■医院開業向け物件を紹介

コンパスに集まる開業物件情報を公開。ノウハウを紹介したサイトで公開している診療圏分析と合わせて効率的に検討できる。

※以上の情報は下記アドレスの株式会社コンパスホームページからアクセスできる。

「開業をお手伝いさせていただく際には、先生の夢や想い、パーソナリティを実感し、私たちが良いと考えるプランと融合させることによって、そのドクター、そしてスタッフの皆さんだけのクリニックを創ることに繋がっています」と語る長渡専務。今回紹介した「整形外科 せいクリニック」は、院長の清野氏をはじめスタッフが皆、明るく元気にその明るさがクリニックのデザインにも反映されている印象である。



写真左から前蘭氏、長渡氏、清野氏、五百蔵氏

株式会社コンパス

【大阪本社】〒560-0034 大阪府豊中市蛍池南町1-19-20
【東京営業所】〒101-0047 東京都千代田区内神田2-11-8

<http://www.compass-co.com>

E-mail ■ takeshi@compass-co.com

TEL ■ 06-6845-0306 担当/長渡 武史



整形外科 せいクリニック 院長

清野 大輔氏

1999年/兵庫医科大学医学部卒業 2006年/同大学医学部大学院卒業 兵庫医科大学病院、米サンディエゴ スクリプス研究所、Jリーグ ガンバ大阪専従チームドクター等を経て、2015年に「整形外科 せいクリニック」を開業

「整形外科の開業医が最終的に目指すのは保存的医療です。手術ができなかったり、あるいは手術をしたくないということだったり。そうした患者さんの想いに応え、手術に近い効果を上げられる診療を行いたい

現在の場所を開業地に決定した経緯について、清野氏は次のように語る。「単にアタマから『できない』ということではなく、しっかりと親身になって調査してくれた結果の提案でしたので、自分としてはスッキリと納得し、受け入れることができました。同時に、この人たちに全部お任せしたいという信頼感も生まれました」

整形外科開業医としての理想を追求できるクリニックを実現

新たなクリニックのプランニングは、清野氏が目指す医療のイメージを共有すると

と考えていました。そこで重要になるのがリハビリテーション。充実したマシンを導入し、多くの患者さんが効率的にリハビリに取り組める広さと動線、また理学療法士等のスタッフがストレスなく存分に力を発揮できる環境の構築が欠かせません」

そうした清野氏の想いを受け、設計を担当したのがコンパスの設計部主任・五百蔵（いおろい）雅子氏だ。

「通常のクリニックの場合、ゾーニングは院長を中心置いて考えます。しかし整形外科とりわけ、せいクリニックの場合はリハビリを主体となっていく優秀なスタ

約20年前からクリニック設計・施工を手がけ、これまでにテナント型（ビル診療）を中心に約600件の実績を有する株式会社コンパス。クリニックに特化することで蓄積した豊富なノウハウを活かし、同社が開業をサポートした大阪府門真市の「整形外科 せいクリニック」取材した。